



「三重ぐるり」のコーナーでは、毎月テーマを1つ設け、そのテーマに沿った三重県内の市民活動団体を紹介しています。今号のテーマは【Iターン・Uターン・まちおこし・にぎわい創出】。

自分たちの住んでいる地域をより豊かに、より良くすることを目指して地域の特色を生かしたさまざまな活動が行われています。

地域の活性化に力を注いでいる団体の活動を県内各地の市民活動（支援）センターのご協力を得てご紹介します。

ぼちぼち会

情報提供：特定非営利活動法人 みえきた市民活動センター



聖宝寺さんでのお食事の接待です

藤原岳のすそ野に位置する自然豊かな地区です。次の世代に美しい自然を残し、今まで潜在化していたこの地区の良さを広く知ってもらうためのイベントを企画し、地区住民だけではなく他地域の方に多く訪れていただくことにより、地域活性化をはかり、“住み良い”さらには“住みたい地域づくり”を目標としています。“春は桜、秋は紅葉が美しいふるさとの山にしよう”の活動では、聖宝寺の参道を整備し、もみじの苗木を記念植樹し、砂防ダムの周辺にやまさくらの苗木を植林しました。“聖宝寺もみじまつり”では、県内だけでなく、愛知県、遠く関西からも来訪される皆様にお食事・お茶席の接待をしています。“まちをきれいな花でいっぱいにする活動”では、ぼちぼちマーケットで、地域で協力いただける方たちにプランターと球根を配布し、春と秋にグラジオラスやチューリップの球根の植栽もしています。

ひと言
PR!

藤原岳のすそ野の自然豊かな地区で、山が好きの方の癒しの地域として、多くの方たちとの交流を

いなべ市藤原町坂本 1090

☎ 0594-46-2268 ✉ t3hin3kz@m3.cty-net.ne.jp

四日市諏訪商店街振興組合

情報提供：四日市市なやプラザ



エコ教室の様子

バブル崩壊後、特に近年5～6年前から中心街としての基盤が崩れて地盤沈下が激しくなっています。

今後、中心商店街の活性化を図るためにも空き店舗、空き土地の有効活用を進める方策についての検討が必要です。ひいては「まちおこしまちのにぎわいを創出する事」につながります。

それらが起爆剤となるようにするのが現在、最優先に進めなければならない課題であります。

その課題についてより具体的に目に見える形で行動に移し関係者一同が問題を共有化し一丸となって成果に結び付けるように取り組んでいきます。また若者がIターン・Uターンできるような魅力的な環境素地作りが必要です。今後、ますます増加する高齢者の方たちの交流と集うことができ、コミュニケーションが図れるようなふさわしい場所が無いのが現状であります。気軽に利用できる場の確保をしていくことも関連として重要です。

かつてのにぎわいを取り戻し生き生きとした活力のあるまちづくりをめざして頑張ります。

ひと言
PR!

関係者全員が当該問題を認識し共有化することにより現在、取り組みを進めている策について少しでも理解が得られて次のステップにつながる事ができればと考えています。

四日市市諏訪町 11-6 ☎ 059-351-6405

輝く瞳 Waraひろば

情報提供：鈴鹿 NPO サポートセンター



親子体験教室の様子

鈴鹿白子のショッピングセンターサンズ 3 階の一部スペース(三角ひろば)を使って、白子地区周辺の地域に住んでいる子どもがママパパと手作りの体験教室やイベントに参加することによって多くの親子が集うことができているにぎわい創出につながればと挑戦しています。子どもが手先を使ってさまざまな体験を通して「できた!」との達成感から子どもが笑顔になり、新しい発見があり、自由な発想を伸ばすことで家族も笑顔になることを期待しています。これらの活動を通じて児童虐待防止や少子化対策につながればという思いで活動をしています。毎週日曜日に無料のWaraキッズ会(読み聞かせ、折り紙、簡単な工作)やWara教室(クラフト体験教室)を開催し、ウイークデイでは三角ひろばを無料開放して、親子で利用してもらうことによりにぎわいの創出に努めています。また、「とびだせ!Waraひろば」として小学校や病院、学習塾やほかのショッピングセンターで出張教室を開催し、まちおこしににぎわい創出を目指しています。

ひと言
PR!

子どもの無限の想像力、発想力、考える力(工夫するということ)を現代のこれからの子どもたちが自由に表現できる場所を作りたいと思っています。

鈴鹿市白子駅前 9-20 白子サンズ 3 階
☎ 059-387-0767 ✉ budou@mecha.ne.jp

上ノ村縁結びプロジェクト

情報提供：津市市民活動センター



米作りの作業風景。ここぞという時の学生諸君の頑張りもなかなかでした!

中山間地域は後継者不足や高齢化などにより、耕作放棄地が急増しています。農業が百姓レベルで「業」として成り立たないなら、また国策が大規模化、効率化を目指すにとどまるなら、集落の田んぼは自分たちで守っていくしかありません。それは、集落を守ることであります。農村の原風景は郷愁のためだけではない。生物の多様性をはじめとする多面的な機能の核になる「田んぼ」が、営利性とか合理性のものさしだけで測られるのは困った問題です。成り立たないなら、別のものさしで、別の土俵で活動しようというのが「縁結びプロジェクト」です。みんなで力を合わせて作り、できた米はみんなで分ける。自分がかかわって作った米の安全性は保証するまでもありません。安心とは本来そういうものです。今年は、学生さんと昔風の米作りをしました。自分の口に入れるものは自分で作る。お金で済ませないで、少なくとも自分がかかわる。私たちの活動はそういう社会実験でもあり運動でもあります。

ひと言
PR!

はさかけ(天日干し)した米は実にうまい。ベテランのお百姓さんの指導とお天道様のおかげです。来年は、企業の CSR(社会貢献活動)が加わり、その先は都会の人も交えて、上ノ村の休耕田で米作りをしてみよう予定です。

津市白山町上ノ村 450 ☎ 090-4194-3977
上ノ村縁結びプロジェクトブログ <http://kaminomura.blog.fc2.com/>

柚原自治会

情報提供：松阪市市民活動センター



店内に設けたサロンの様子

松阪市の山村、宇気郷地区にある柚原町。人口 82 人のうち 70%が高齢者という過疎・高齢化が進むこの町では、自治会が地域の郵便局とスーパーを経営しています。平成 15 年、町唯一のスーパー(JA)の撤退が決まり、住民は車を運転しない人が多いことから「買い物難民」、また年金を受け取る場所がなくなるという「金融難民」になることが危惧されました。そこで「ここで暮らし続けるために、自分たちの生活は自分たちで守ろう」と、住民自らが出資し、自治体として法人格を取得して、平成 19 年に郵便局と簡易スーパー「みんなの店」を設置しました。郵便局では町内から 1 人を雇用し、スーパーでは自治会女性部が交代で店番をしています。またスーパーの店内に設けたサロンでは、薪ストーブを囲んで健康講座や地域行事を行うなど、新たな地域の情報発信基地、集いの場の役割も果たしています。100%自治会運営の郵便局、スーパーは全国的にも珍しく、関心が高まっています。

ひと言
PR!

スーパーでは調味料、せっけん、衣料、農機具、冬は灯油など、車に乗れない人、1人暮らしで買い物不自由な人が最低限必要なものを置き、生活を守ることに重点をおいています。

松阪市柚原町 159-1 ☎ 0598-35-0035